

(財) 自治体国際化協会 ロンドン事務所 マンスリー トピック (2013 年 3 月)

深刻化する南東ヨーロッパからの移民対策 — 政府間協力の必要性を訴えるドイツ都市会議

ドイツ都市会議 (Deutscher Städtetag) は、最近大都市において顕著な南東ヨーロッパの国、主にルーマニア及びブルガリアからの移住の増加を課題とした「特別事情報告書」を発表した。2007 年にルーマニア及びブルガリアが欧州連合 (EU) に加盟して以来、この国々からドイツへの移住は 6 倍に増え、2012 年前半には、前年度の同時期と比べて、24%の増加となった。他の EU 加盟国出身の移民と同様、ルーマニアとブルガリア出身の多くの移民はドイツで就職し、社会的な参加をしているが、最近では、母国での生活状況が困難であるために、よりよい生活を求めてドイツに入ってくる人も増えている。実際には資格や技術を持たず、そしてドイツ語も出来ないままではドイツで仕事を見つけることが難しく、結局はこのような人にとって、ドイツでの生活状況も大変厳しいものとなっている。ドイツの大都市では、既にスラムに近い状態となっている場所さえあり、無節操な家主が劣悪な家に多数の借主を入れ込む状況がある。ドイツ都市会議は、特に以下の分野では緊急対策が必要であるとしている。

- ① 健康：新移民の多くは、健康状態が望ましくない上に、健康保険にも加盟していないため、適切な書類を持っていない。したがって、緊急医療機関にかかることが多く、継続的な治療が困難である。また、必要な予防接種も行われていないケースが多い。
- ② 子供と教育：子供をめぐる問題が多く、地方自治体が子供の面倒を見なければならぬ場合も多い。子供もドイツ語が話せないため、教育現場でも多様な問題が発生しており、支援体制を強化する必要がある。
- ③ 住居：自国ですでに差別されている民族グループ出身の新移民は、過密住宅に住みつくことが多い。管理状態が悪い集合住宅や仮設的なものに住むことが少なくない。また、住環境状況が悪いのに高い家賃を払わされることも少なくない。

- ④ コミュニティーでの社会的統合：もともと貧困な移民が増加することで、住宅地区に犯罪の増加、物乞い、売春行為など様々な問題が発生し、元の住民との摩擦が増えている。
- ⑤ 労働市場：新しい移民は、やみ市場により仕事を得ている場合が多く、偽の実業家登録も増えている。

ドイツ都市会議は、これらの問題を解決するため、連邦政府、州政府や都市が連携して対応するように呼びかけている。報告書では、こうした新たな移住の形態は「貧困移住」と定義づけているが、「国境なきヨーロッパ」が構想された時には、このような移住は想定されていなかった。欧州連合の市民の権利となっている国境を超えた移動の自由は、出身国において社会年金・健康保険制度に加入していることを前提としている。自国でも社会保障制度に登録されていなければ、他国の制度には基本的にアクセスできない。ドイツ都市会議は、特に医療関係の費用をまかなうための基金の設立を提案するとともに、欧州社会基金（European Social Fund）からの資金を帰国支援のために利用できるようにする新たな仕組みなども要求している。都市会議からの要望の最重点事項は、ドイツ連邦政府及び欧州の他国政府が、ブルガリアやルーマニアの政府と協力し、出身国における生活の質向上や社会保障制度の充実に努めるべきである、というものである。欧州連合のこれまでの大きな目標は、やはり全ての人の生活の質を改善することなのである。

参照

Deutscher Städtetag, 'Probleme durch Zuwanderung aus Rumänien und Bulgarien: Armutzuwanderung aus Südosteuropa braucht Lösungen durch Bund, Länder und EU' 14.2.2013
<http://www.staedtetag.de/presse/mitteilungen/064517/index.html>

Der Spiegel online, 'Obdachlose Einwanderer: Ansturm der Armen', 26.2.2013
<http://www.spiegel.de/wissenschaft/medizin/armutsmigration-zuwanderung-verschaerft-situation-von-obdachlosen-a-881444.html>